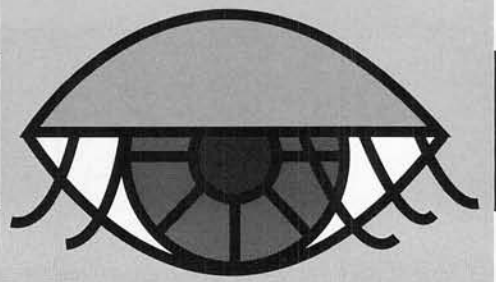


# FAME Report



京都ノビキ見トピックス

取材・文/大塚祐希  
写真/小笠原圭彦



## シィーラ・E……今年の夏を 最も熱くした、ラテンの夜。 アグレッシヴでボールドな美貌に天才的パーカッション・センス。 天が彼女に与えたふたつの才能が、サウンドコート・スターズに炸裂。

7月30日、夜。ロイヤルオークホテルのサウンドコート・スターズで行なわれたのはシィーラ・E & ザ・E”トレインによるスペシャルライブだ。その名も“SEX CYMBALS”！シンバルといえば、日本でシィーラ・Eの人氣が頂点に昇りつめた頃、テレビCMでシィーラがシンバルをキックするシーンがあったのを覚えているだろうか？スラリと伸びた長い足を高くあげるシィーラがとてもセクシーでカッコよかった。そんなシィーラを見られるかどうか？が今回のライブのひとつの楽しみ。期待に胸を膨らませつつ、ステージにはシィーラの姿が現われるのを待った。ステージにはコンガやアゴゴ、カバサ、ティンバレス、ツリーベルなどのパーカッションはもちろん、新兵器(?)のデジタルパーカッションがまるでオモチャ箱のように主人の登場を待ち構えている。

クローズな雰囲気のスターズのステージに、ちよつとはにかんだ様子で彼女はひよつこりと現われた。シィーラを見たのはもう何年も前になるが、当時とまったく変わりにない美貌に、観客は思わず歓声とため息をあげた。

と、いきなりアップテンポのナンバーがスタート。ラテン・フレーパーバーがゴキゲンな1曲目は“Puerto Rico”だ。今回はドラムスにシィーラの弟、ピーター・マイケルを迎え、シィーラも幾分かリラックスしてプレイ。コンガからカバサへ、というように、パーカッションを持ちかえながら、持ち前の天才的リズム感を披露してくれた。

また、不思議なリフとミディアム・テンポの

リズムが印象的な3曲目“Kisses”では、ボーカルも披露。“Kisses”のフリース部分のかけ合いで、ステージと観客がひとつになった。

5曲目の“Pass the peds”と6曲目の“FE”では、ピーターに替わってドラムスを演奏する。ドラミングは、驚くほどパワフルでしなやか。それでいてタイトでツブの整った繊細なプレイに思わずため息をついてしまう。シィーラが天才的パーカッショニストと呼ばれるゆえんは、そのリズム感だけではなく、あらゆるパーカッションの音色を細かくコントロールしながら、自分の音を削りあげていくところに、彼女の天才ぶりが発揮されているんだなあ、ということがこのライブでつくづく実感させられた。

いよいよライブも佳境にさしかかると、シィーラのお遊びタイム。さまざまなお道具を利用してのパーカッション大会だ。特にドリンクのボトルを笛のように鳴らすところでは、弟のピーターも参加しておおいに盛り上がった。ピーターとドリンクをかけた子供のようにしゃべるシーンでは、仲のよい姉弟そのもの。そんな息の合ったところが、プレイの随所に活かされていることは、この夜集まった誰もが見て取れた。ザ“E”トレインはシィーラの単なるバックバンドではなく、家族のような特別な存在に違いない。シンバルをキックする勇姿(?)こそ見ることはできなかったが、シィーラの健在ぶりをハッキリと感じることができた一夜だった。